新発田街道は北区のメインストリート！

■陸の道「新発田街道」

新発田街道は、江戸時代に新発田城下と沼垂や新潟の湊を結ぶ重要な道であったので、この名で呼ばれています。北区では、笠柳～横井～内島見～木崎～木伏～新崎を通っています。そのため「木崎街道」とも呼ばれています。

街道沿いにはハンノキや松が植えられ、夏は日陰を作り、雪の時には道路の所在を示す目印となりました。

木伏付近の街道　（左：現在　右：1984年）

1878（明治11）年には、明治天皇の北陸巡幸の経路となり、天皇はこの街道沿いの新崎の古山家（太古山日長堂）や内島見の近藤家（内島見行在所跡）で休憩・昼食をとっています。明治時代には人力車や荷馬車が行き交い、木崎の旅人宿や街道筋の茶屋などが繁盛しました。

その後、1912（大正元）年の羽越線新津～新発田間の鉄道開通、1920（大正9）年の新潟～新発田間の乗合自動車運行開始、さらに1931（昭和6）年頃からの新崎～佐々木間の新道路（旧国道7号線）建設などが行われました。これらの著しい陸上交通網の発達によって、この街道は役割を終えました。

新発田街道関係年表

1879（明治12）年	：県道１等道路に指定
明治の末	：県道米沢線と呼称
1920（大正９）年	：国道10号線と改称
1931（昭和６）年頃	：新崎～佐々木間の新道路造成工事着工
1952（昭和27）年	：新道路が１級国道７号線となる
1959（昭和34）年	：国道７号線新潟～新発田間全面舗装工事完了
1973（昭和48）年度	：新新バイパス工事着手
1977（昭和52）年	：新新バイパス海老ケ瀬IC～競馬場IC開通
1989（平成元）年	：新新バイパス全線開通

『北区お宝ものがたり』は、博物館などで1冊800円で頒布しています。

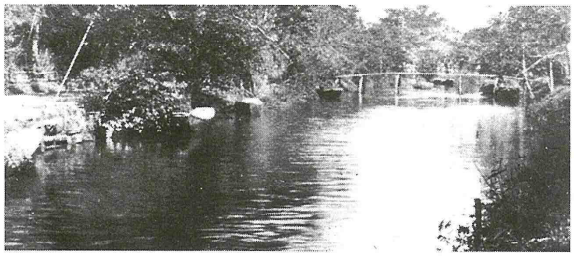
■川の道「旧新発田川」

木崎付近には、街道に沿った川があります。旧新発田川です。

江戸～明治時代には、新潟から通船川経由で阿賀野川を横断して遡上し、木崎、さらには新発田へと至る舟の通り道でした。人や荷物を運ぶ川舟が行き交い、木崎では、舟待ちの人々を相手に茶店が出ていました。

1786（天明6）年、漢方医 橘 南谿は新潟～木崎間を舟で旅をしました。そのときのことを、次のように記しています。

新潟の町から小舟を借り、新発田の木崎という所まで5里の間を、この川の入江入江を伝って乗ったが、その間、広い所は2里以上の場所もあった。狭く入り込んだ所は2、30間の所もあった。（中略） 船中から四方を見渡すと、西南から東北へ6、70里見渡しても山はない。西北には25里の所に佐渡山が見え、東方には奥州会津の山が見える。旅人が新発田川を船でさかんに行き来していた姿がしのばれます。



1955（昭和30）年頃の旧新発田川

現在、旧新発田川は排水を集めて流れをつくり、濁川中学校付近から流れをかえ、新井郷川へ合流しています。

■宿場町「木崎」

新潟と新発田の中間に位置する木崎は、新発田街道と旧新発田川が並行する集落です。そのため、江戸時代中期以降から交通の要所で、宿場町として栄えました。川沿いには10数軒の旅人宿や茶屋が軒を並べ、新潟からの舟などでにぎわいました。

1900（明治33）年の木崎宿

江戸時代には戯作者 十返舎一九や思想家 吉田松陰なども木崎に宿をとっています。明治に入ると、人力車なども行き交うようになり、いっそうの賑わいを見せました。

しかし、新発田街道の衰退とともに、宿場町としての役割を終え、今ではその姿をまったく見ることができません。

現在の木崎（木崎宿跡）

『北区お宝ものがたり』は、博物館などで1冊800円で頒布しています。